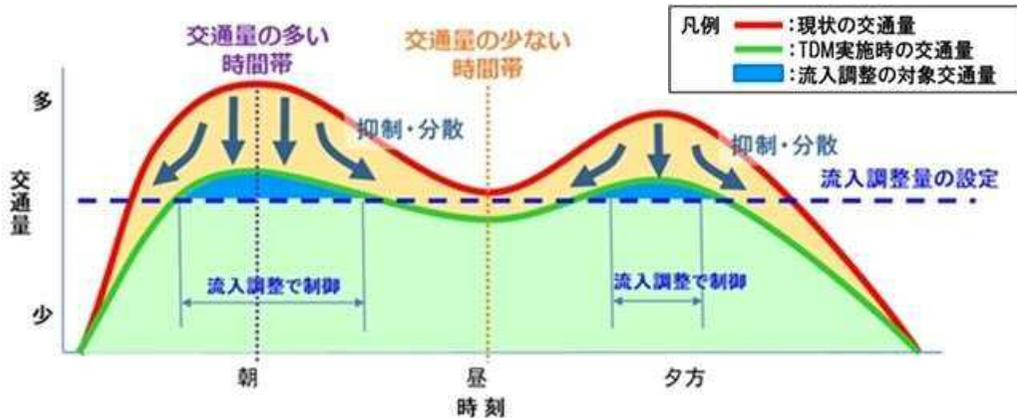
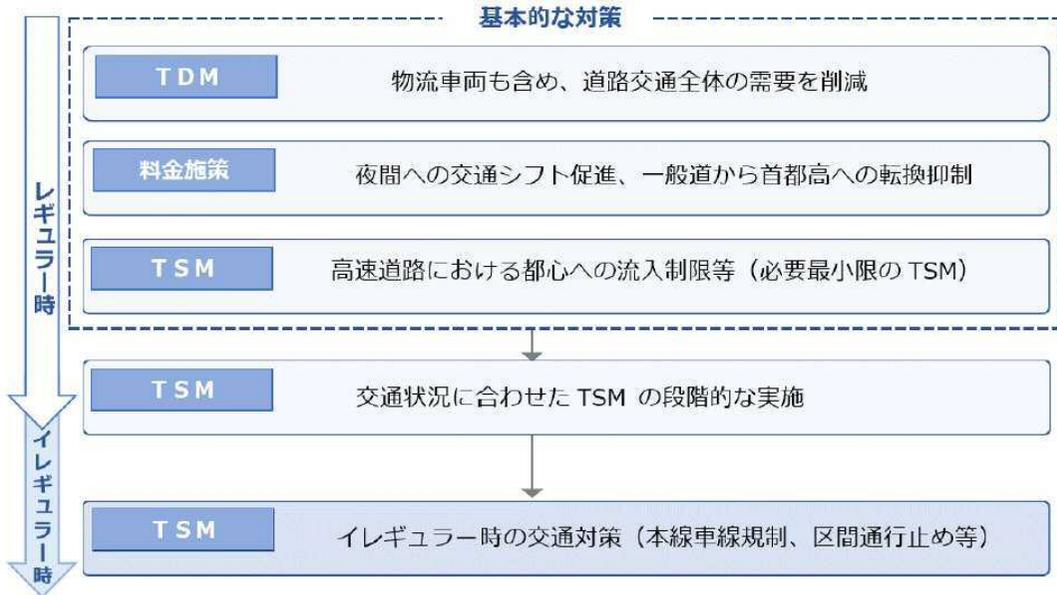


東京2020大会における交通マネジメントについて

- 大会期間中、一般交通に大会関係車両が加わることで首都高の渋滞は現況の2倍近くまで悪化することが想定されている。
- 大会関係者や観客の円滑な輸送と、物流を含めた都市活動の安定の両立を図るため、交通マネジメントの実施が必須。
- ORNの基幹となる首都高では、交通量を最大30%減とすることで休日並みの良好な交通環境を目指す。

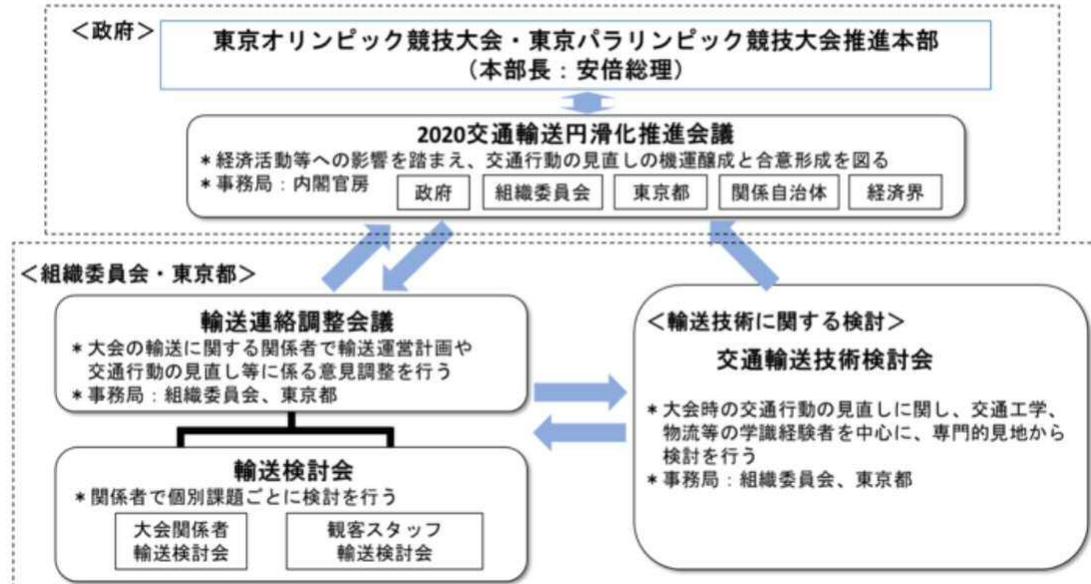
＜道路の交通マネジメント運用の考え方＞



TDM (Travel Demand Management) : 交通需要マネジメント
 TSM (Traffic System Management) : 道路の交通システムマネジメント
 ORN (Olympic Root Network) : オリンピック・ルート・ネットワーク

出典: 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ

2020年東京大会の輸送にかかわる推進体制



出典: 東京都オリンピック・パラリンピック準備局ホームページ

＜参考＞ 休日並みの交通環境

2019年8月2日(金) 朝ピーク(8時)



2019年8月4日(日) 朝ピーク(8時)



東京2020大会に向けたTDM・TSMの試行

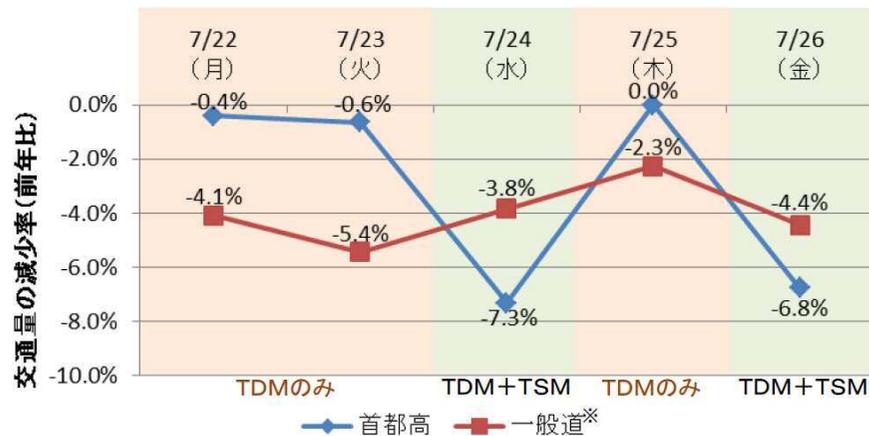
- 東京2020大会での良好な交通環境の確保に向けて、昨年7/24(水)、26(金)にTDM・TSMの試行を実施。
- 試行の結果、道路交通は一定程度減少(一般道は約4%減、首都高(TDMのみの日)は約0.4%減)。
- 一方、他の高速道路や一般道で通常を上回る渋滞が発生。本番時は、大会関係車両や観客の滞在等による波及交通で、首都高の交通が更に増加する見込みであり、TDMによる更なる交通量低減と、追加対策の実施が必要。

<TDM・TSMの試行概要>

- 実施日 2019年7月24日(水)・26日(金)
- 実施内容
 - ・終日実施(0~24時) :本線料金所流入調整:11箇所、入口閉鎖:4箇所
 - ・交通状況に応じて実施 :入口閉鎖※ :35箇所(24日)、33箇所(26日)
本線車線規制 :2箇所(24日)、2箇所(26日)
 - ・一般道 :環7から都心方向への流入制限(信号制御)
※最大の同時閉鎖箇所

<TDM・TSM夏の試行結果>

- ・TDMの効果 :首都高約0.4%減、一般道約4%減
- ・TDM+TSMの効果 :首都高約7%減、一般道約4%減



※国道1号、4号、6号、14号、15号、17号、20号、246号、254号の15地点の断面交通量の合計

《参考:首都高の通行台数(2018年) 7月平日平均:110.1万台/日, 大会同時期最大:117.7万台/日》



- オリンピック・ルート・ネットワーク (大会ルート)の高速道路
- 終日レーン数を制限する本線料金所
- 終日閉鎖する入口
- 交通状況に応じて閉鎖する入口



本線料金所流入調整 (東北道 浦和本線料金所)



入口閉鎖 (首都高 三軒茶屋入口)



東京2020大会における首都高の料金施策について

○ TDM・TSM試行を踏まえ、東京都及び大会組織委員会において、交通量低減に係る追加対策を検討した結果、首都高利用の夜間シフトを促進する夜間半額割引の導入とともに、一般道から首都高への転換を抑制するため、料金上乗せ額を1000円とする料金施策の実施方針が決定。 ※2月4日、国土交通大臣より事業許可

<料金施策の概要>

パブリックコメントの実施

(2019年8月27日～9月26日 実施主体:東京都)

1. 適用期間

2020年7月20日(月)から 8月10日(月・祝)まで
2020年8月25日(火)から 9月 6日(日)まで

2. 料金施策の内容

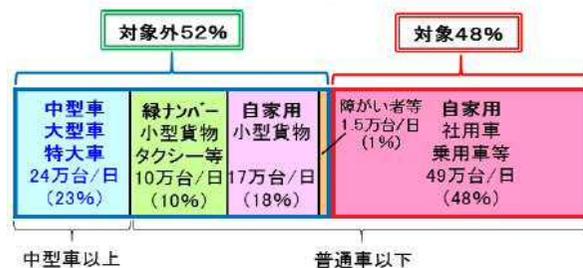
ETC搭載車両

- ・夜間割引 : 首都高全線5割引 (対象車種:全車種)
- ・料金上乗せ : 都内区間1000円上乗せ (対象車種:マイカー等)

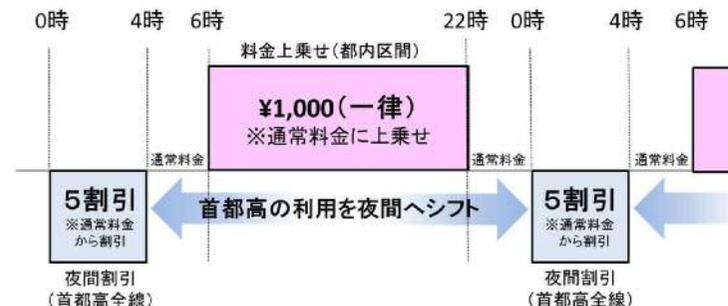
現金車両

- ・夜間割引 : なし
- ・料金上乗せ : 首都高全線1000円上乗せ(対象車種:普通車以下の全て)

<料金上乗せの対象車種> (ETC搭載車両の場合)



<料金施策による夜間割引 と料金上乗せ> (ETC搭載車両の場合)



<料金上乗せの範囲(ETC搭載車両)>

